令和８年 10 月 19 日
総務常任委員会資料
企画部企画広報課

第３期加古川市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（案）等の策定について

１　計画名

第３期加古川市まち・ひと・しごと創生総合戦略

２　計画期間

令和９年４月から令和 14 年３月まで（５年間）

３　第３期人口ビジョン（案）、第３期総合戦略骨子（案）

(1)第3期人口ビジョン(案)

第２期人口ビジョン

・令和 42 年（2060）年に総人口 20 万人程度の確保を目標

現在の状況

・令和７（2025）年市人口（実数）は目標人口と推計人口の中間に位置

・若い世代の転出超過が顕著、特に 20～24 歳の転出超過が突出

第３期人口ビジョン（案）

・引き続き、令和 42 年（2060）年に総人口 20 万人程度の確保を目標

(2)第3期総合戦略骨子(案)

重点課題

・出生数減少の緩和

・20～24 歳の転出超過への対応

基本目標及び基本的方向

基本目標	基本的方向
“まち” 暮らしたい、訪れたい、 関わりたくなるまち	(1) 暮らしやすさを実感できるまちをつくる (2) 地域資源をいかした魅力あるまちをつくる (3) 官民等連携・広域連携により地域の活力を高める (4) 地域への愛着醸成と関係人口の創出・拡大を図る (5) 安全・安心で持続可能なまちをつくる
“ひと” 誰もが希望を持ち、 自分らしく暮らせるまち	(1) 安心して結婚・出産・子育てできる環境をつくる (2) 学びと成長を支える環境をつくる (3) 自分らしい働き方を実現できる環境をつくる (4) 多様性を認め合い、支え合える地域社会をつくる
“しごと” いきいきと働き、活躍 できるまち	(1) 若者・女性・外国人など多様な人材の活躍を支援する (2) 地域産業の成長と発展を支援する (3) 起業・創業の促進や企業誘致を図る (4) 誰もが働きやすい職場環境をつくる (5) 若者が地域企業とつながる機会を創出する

重点施策

・地域活力の向上と持続可能なまちづくりの推進

・結婚、出産、子育て施策のさらなる充実

・しごと（働く場）の創出と産業振興による地域経済の活性化

４　今後のスケジュール

年度	時期	まち・ひと・しごと創生戦略会議	検討内容（予定）	【参考】総合計画
R8年度	9月17日	第1回	・第2期総合戦略の検証 ・第3期戦略骨子（案）	総合計画審議会 7月22日 から 10月30日（予定）
	12月中旬	第2回	・人口ビジョン（案） ・第3期総合戦略（案）	
	12月下旬 ～ 1月上旬	パブリックコメント		12月議会提案
	1月から2月	第3回	・パブリックコメント結果反映	
	3月	第3期総合戦略策定		

５　令和８年度第１回加古川市まち・ひと・しごと創生戦略会議の概要報告

（１）日時及び場所

日時：令和８年９月 17 日（木）　午前 10 時 00 分～午前 11 時 45 分

場所：加古川市役所　議場棟　第３委員会室

（２）出席者

委員 13 名中、13 名出席

（３）議題及び内容

第３期加古川市人口ビジョンにおける将来展望人口の改定（案）について

第３期加古川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の骨子（案）について

（４）委員の意見等

・これまでの取組により、子育てのしやすさやまちの魅力を実感する人が増えるなど一定の成果がある一方、出生数や出生率の改善には必ずしもつながっていない。「ひと」に着目した従来の施策から「まち」を前面に出した政策への転換は妥当と考えるが、まちの魅力向上が人口の社会増や出生数の増加にどの程度つながるのかは未知数であることに留意する必要がある。

・大手企業や大学等との連携によるイノベーション拠点づくりは、加古川市の新たな魅力となる可能性があり、若者がイノベーションにつながる起業についても考えられるような地域づくりを進めることも、一つの方向性として重要と考える。

・各都道府県に「新卒応援ハローワーク」があり、大学生の地元就職に関する相談やセミナーなどを行っている。地元企業への就職促進に向け、ハローワークとしても取組を進めたい。

・中学生や高校生が加古川市の企業や地域の魅力を知り、地域との関わりを深めることが重要であり、部活動の地域展開「かこ☆くら」などを活用し、若者の地域への愛着や関心を育む取組を進めることが大切ではないか。

・高校生や大学生についても、乳幼児と触れ合う機会を設けることで、将来の子育てや仕事と生活について考えるきっかけになるのではないか。

・労働力不足を背景に企業が外国人材を受け入れており、母国の文化や生活習慣を持つ外国人と地域社会との相互理解が重要であり、地域での共生のあり方について考えていく必要がある。

資料１

第３期 加古川市人口ビジョンにおける将来展望人口の改定（案）

令和８年９月
企画部　企画広報課

1. 目次

1.加古川市第2期人口ビジョン

2.人口動態の現状

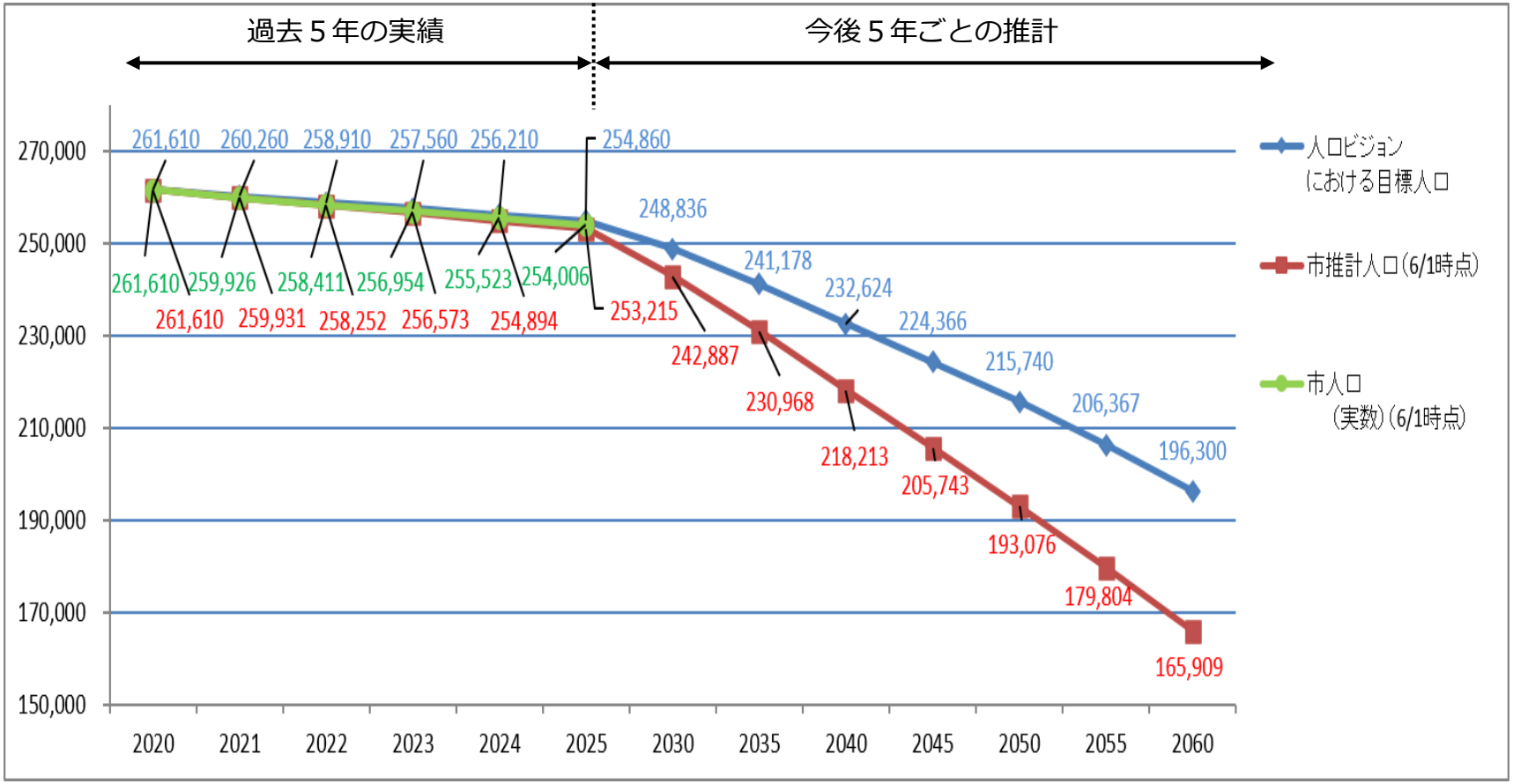
（1）自然動態の推移
（2）合計特殊出生率の推移
（3）社会動態の推移
（4）転入・転出超過数の推移

3.将来展望人口の改定

（1）シミュレーション（条件設定）
（2）将来展望人口のシミュレーション

1．第2期加古川市人口ビジョン

- 第２期加古川市人口ビジョンでは令和42（2060）年に総人口**20万人程度**の確保を目標
- 令和７（2025）年市人口（実数）は目標人口と市推計人口の**中間**に位置

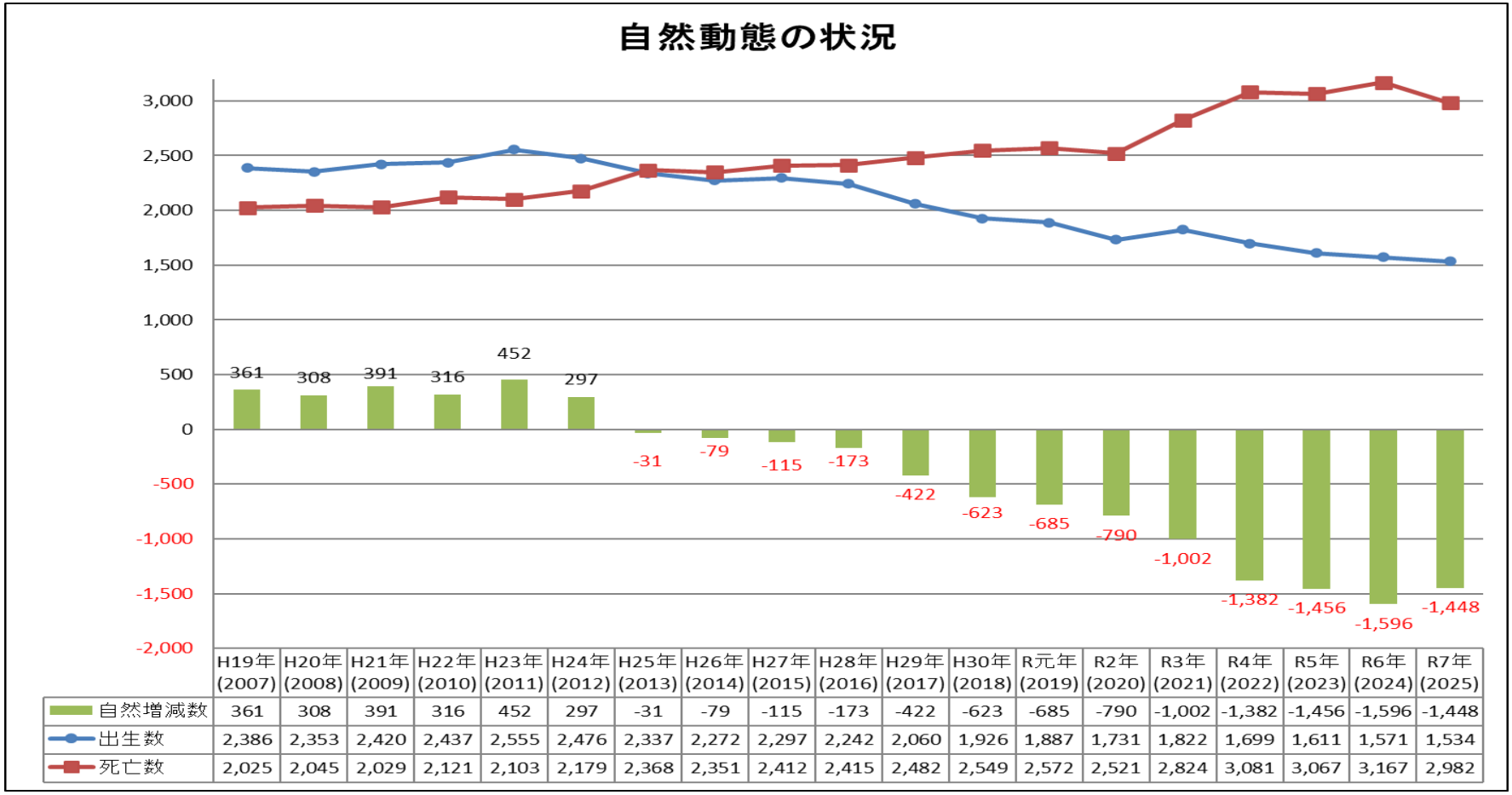


（出典）加古川市「第2期加古川市人口ビジョン」を基に作成

2. 人口動態の現状

（1）自然動態の推移

- 平成25（2013）年以降出生数と死亡数が逆転し、**自然減が拡大傾向**



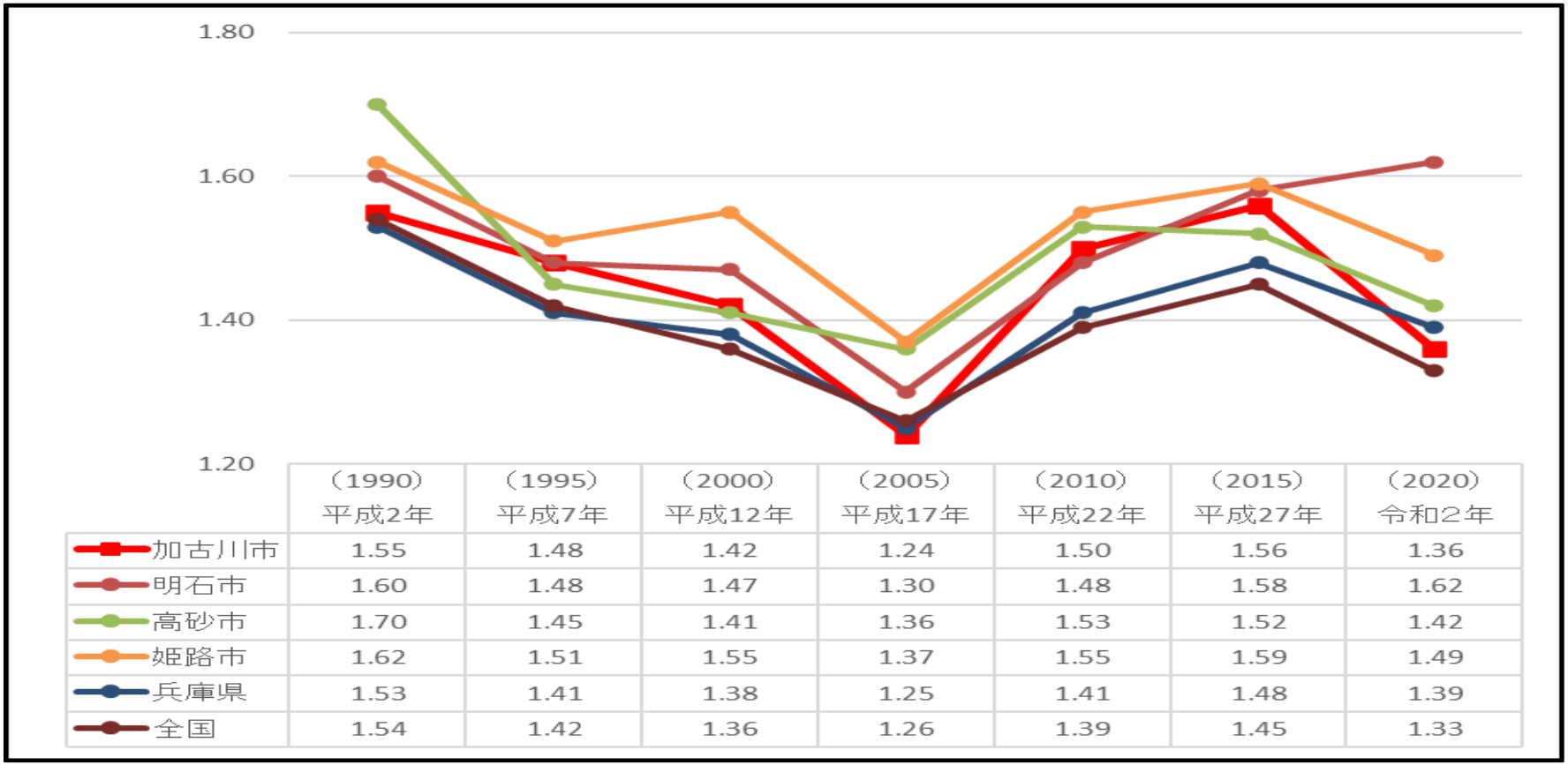
	H19年 (2007)	H20年 (2008)	H21年 (2009)	H22年 (2010)	H23年 (2011)	H24年 (2012)	H25年 (2013)	H26年 (2014)	H27年 (2015)	H28年 (2016)	H29年 (2017)	H30年 (2018)	R元年 (2019)	R2年 (2020)	R3年 (2021)	R4年 (2022)	R5年 (2023)	R6年 (2024)	R7年 (2025)
自然増減数	361	308	391	316	452	297	-31	-79	-115	-173	-422	-623	-685	-790	-1,002	-1,382	-1,456	-1,596	-1,448
出生数	2,386	2,353	2,420	2,437	2,555	2,476	2,337	2,272	2,297	2,242	2,060	1,926	1,887	1,731	1,822	1,699	1,611	1,571	1,534
死亡数	2,025	2,045	2,029	2,121	2,103	2,179	2,368	2,351	2,412	2,415	2,482	2,549	2,572	2,521	2,824	3,081	3,067	3,167	2,982

（出典）兵庫県「人口の動き」
※R7は加古川市推計人口を基に作成

2. 人口動態の現状

（2）合計特殊出生率の推移

- 平成27（2015）年から令和2（2020）年は明石市を除き**低下傾向**



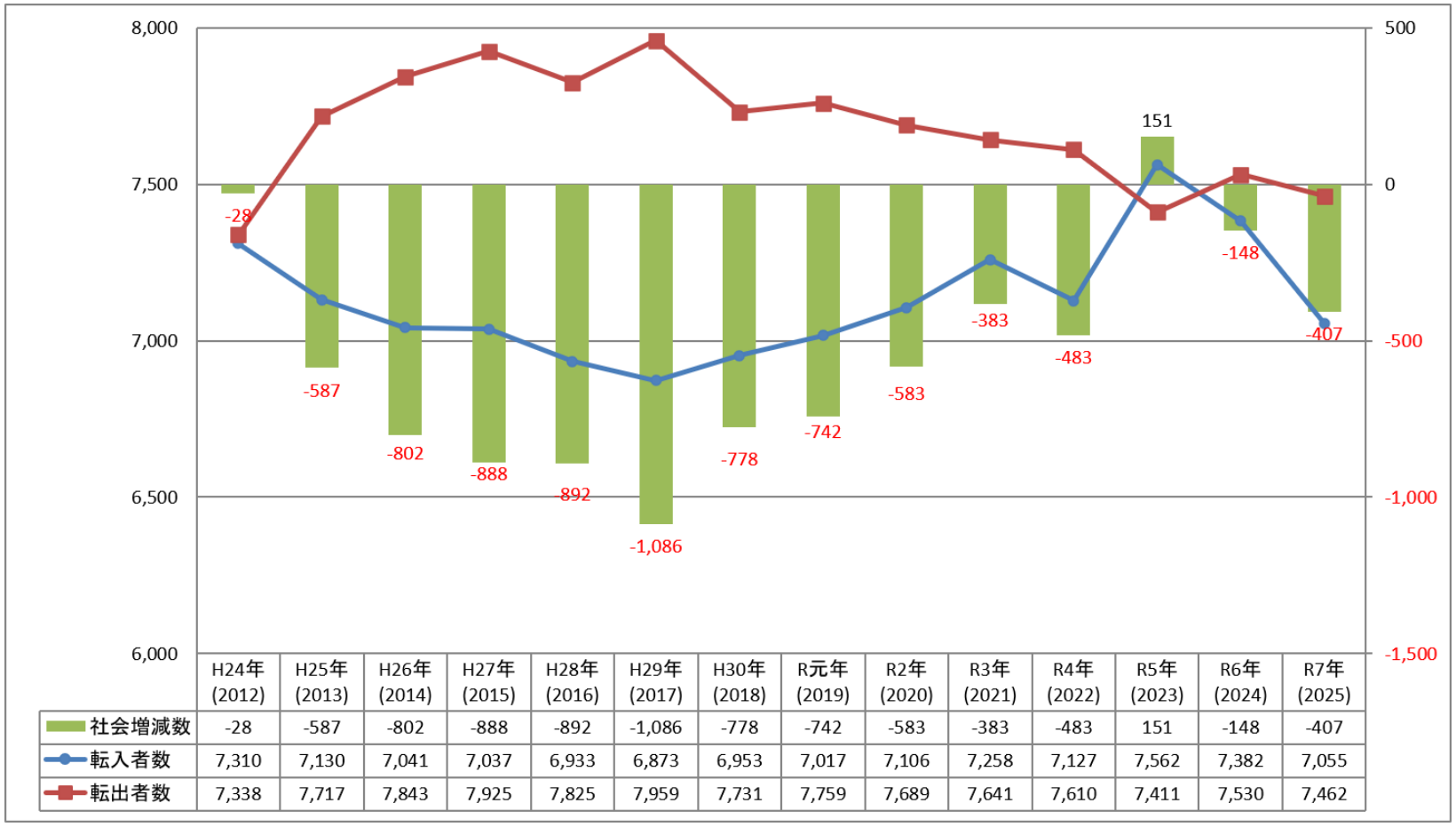
	（1990）平成2年	（1995）平成7年	（2000）平成12年	（2005）平成17年	（2010）平成22年	（2015）平成27年	（2020）令和2年
加古川市	1.55	1.48	1.42	1.24	1.50	1.56	1.36
明石市	1.60	1.48	1.47	1.30	1.48	1.58	1.62
高砂市	1.70	1.45	1.41	1.36	1.53	1.52	1.42
姫路市	1.62	1.51	1.55	1.37	1.55	1.59	1.49
兵庫県	1.53	1.41	1.38	1.25	1.41	1.48	1.39
全国	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39	1.45	1.33

（出典）兵庫県保健統計年報（国勢調査結果）

2. 人口動態の現状

（3）社会動態の推移

- 平成29（2017）年に転出超過数がピーク
- 近年は**改善傾向**にあり、令和5（2023）年には11年ぶりの**転入超過**



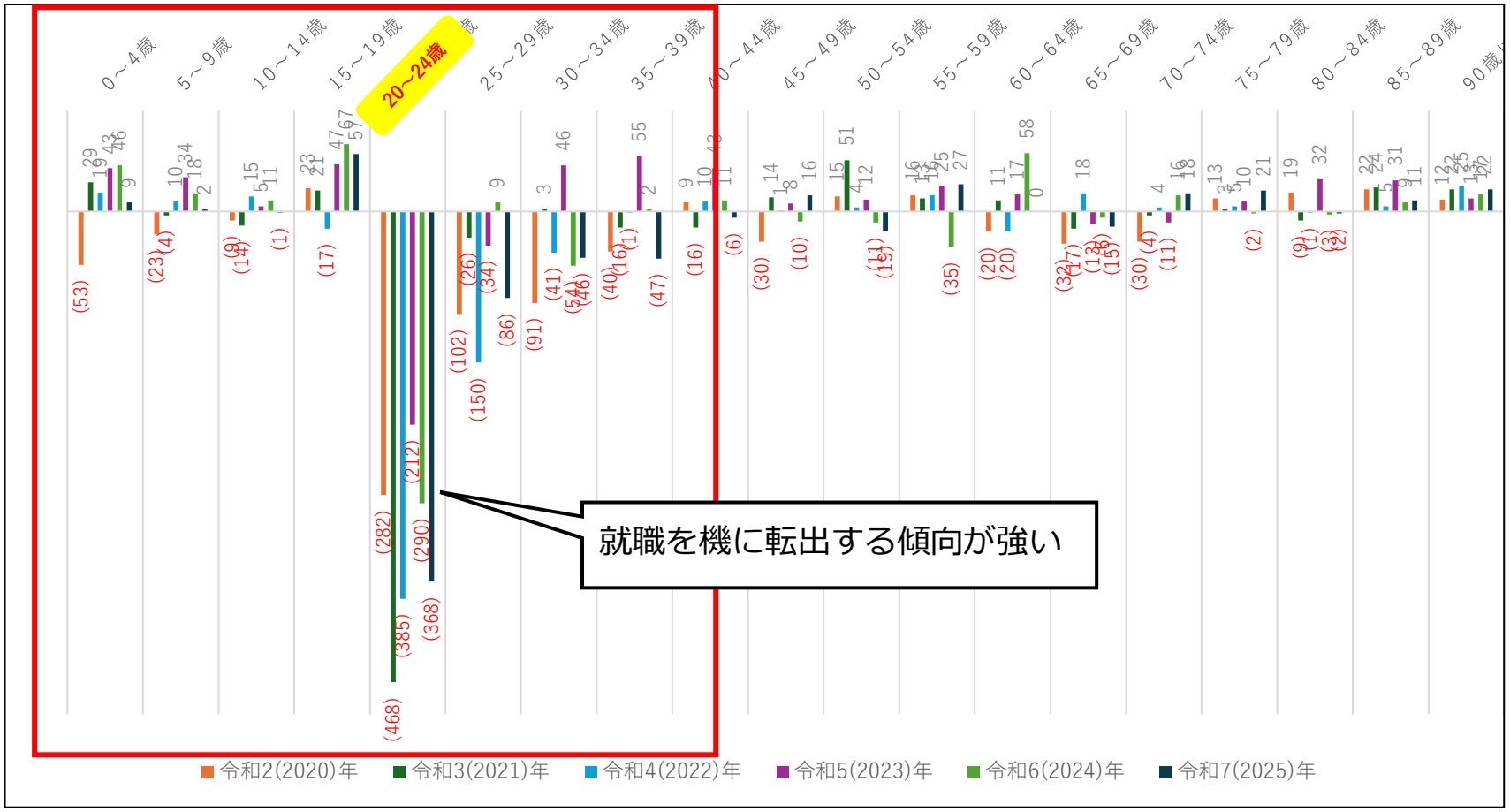
	H24年 (2012)	H25年 (2013)	H26年 (2014)	H27年 (2015)	H28年 (2016)	H29年 (2017)	H30年 (2018)	R元年 (2019)	R2年 (2020)	R3年 (2021)	R4年 (2022)	R5年 (2023)	R6年 (2024)	R7年 (2025)
社会増減数	-28	-587	-802	-888	-892	-1,086	-778	-742	-583	-383	-483	151	-148	-407
転入者数	7,310	7,130	7,041	7,037	6,933	6,873	6,953	7,017	7,106	7,258	7,127	7,562	7,382	7,055
転出者数	7,338	7,717	7,843	7,925	7,825	7,959	7,731	7,759	7,689	7,641	7,610	7,411	7,530	7,462

（出典）総務省「住民基本台帳人口移動報告」を基に作成

2. 人口動態の現状

（４）転入･転出超過数の推移

- 若い世代で転出超過が顕著
- 特に**20～24歳の転出超過が突出**



（出典）総務省「住民基本台帳人口移動報告」を基に作成

3. 将来展望人口の改定（案）

（１）シミュレーション（条件設定）

	合計特殊出生率	純移動率（社会動態）
社人研準拠	直近の数年間の実績を基に、急上昇もしないが、急低下もしない「中位」シナリオを設定。	転入・転出の規模や方向性（都市部への集中など）は、直近の数年間の平均的な動きが継続すると仮定。
第３期人口ビジョンの目標人口（案）	令和12（2030）年まで1.34（※１）を維持し、令和17（2035）年に「国民希望出生率1.8」（※２）に達し、以降横ばいとなるように仮定。	0～14歳及び25～34歳の純移動率が、2030年までに改善すると仮定。若年層については、進学・就職等に伴う一定程度の転出を見込みつつ、25～34歳では、就職・結婚・子育て等のライフステージを捉えた転入やUターンの増加を見込む。また、35～39歳についても純移動率の改善を見込み、40歳以降については原則として2025年の純移動率を維持すると仮定。 2030年以降は、2030年時点の純移動率が継続するものとする。

※１　過去５年間の加古川市における合計特殊出生率の平均値

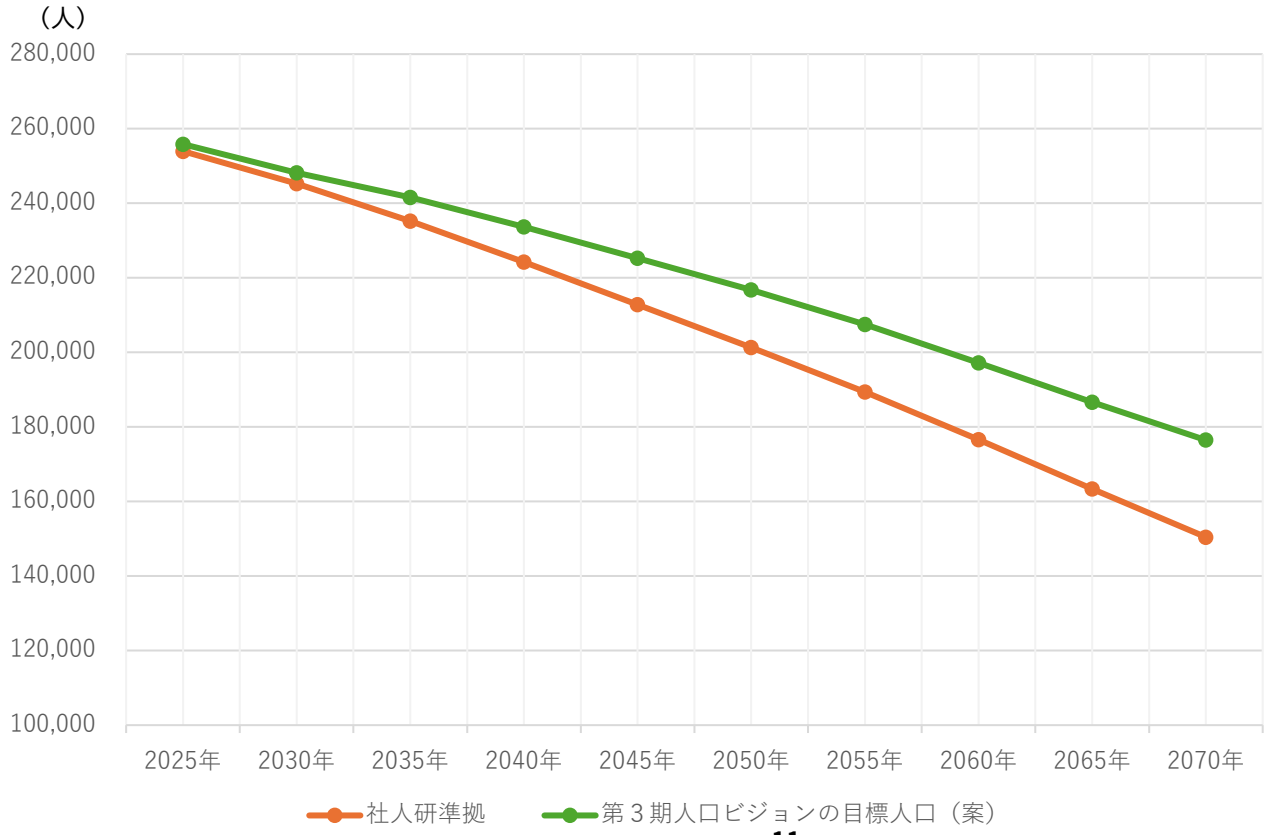
※２　国の「少子化社会対策大綱」に掲げられた数値目標で、若い世代における結婚、妊娠・出産、子育ての希望等がかなうとした場合に想定される出生率

3. 将来展望人口の改定（案）

（２）将来展望人口のシミュレーション

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
社人研準拠	253,958	245,284	235,191	224,194	212,790	201,316	189,341	176,560
第３期人口ビジョンの目標人口（案）	255,850	248,181	241,555	233,636	225,283	216,742	207,521	197,219

第３期人口ビジョンでは、引き続き総人口２０万人程度の確保を目標とする。



資料２

第３期 加古川市まち･ひと･しごと創生総合戦略

骨子（案）

令和８年９月
企画部　企画広報課

1. 第2期加古川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証

全体目標

達成：0　未達成：2　達成率0％

目標指標	基準値	実績値					目標値
		R3	R4	R5	R6	R7	
合計特殊出生率	1.44(※) (R１年)	1.43	1.36	1.30	1.28	―	1.61 (R８年)
20～44歳の転出超過数 (H27～H29年は外国人を含まない)	3,562人 (H27～R1年累計)	523人 (累計523人)	567人 (累計1,090人)	102人 (累計1,192人)	322人 (累計1,514人)	553人 (累計2,067人)	1,430人 (R３～R８年累計)

※合計特殊出生率は市独自算出

基本目標①　“ひと” 結婚・出産・子育ての希望をかなえるまち

達成：1　未達成：1　達成率50%

目標指標	基準値	実績値					目標値
		R3	R4	R5	R6	R7	
出生数	1,820人 (R１年度)	1,811人	1,666人	1,587人	1,584人	1,524人 (R3～R7年度 平均1,634人)	1,890人 (R3～R８年度平均)
加古川市が子育てしやすいまちと感じる市民の割合	45.4% (R２年度)	50.5%	48.8%	49.1%	46.8%	61.8%	60.0% (R８年度)

【今後の取組の方向性】

全国的な人口減少や少子化が進行する中、結婚・妊娠・出産・子育てまで切れ目のない支援を引き続き充実させるとともに、保育・教育環境の充実を図り、安心してこどもを産み育てられる環境づくりを推進する。また、結婚や出産、子育てに関する一人ひとりの価値観やライフスタイルを尊重し、誰もが希望する暮らしを実現できる地域づくりを進める。さらに、企業や地域と連携し、共働き・共育てを支える環境整備や働き方改革、アンコンシャス・バイアスの解消に向けた取組を推進するとともに、こどもが安心して学び成長できる環境を整え、少子化対策を総合的に推進する。

1. 第2期加古川市まち･ひと･しごと創生総合戦略の検証

基本目標② “しごと” いきいきと働けるまち

達成：0　未達成：1　達成率0％

目標指標	基準値	実績値					目標値
		R3	R4	R5	R6	R7	
ハローワーク加古川管内の就職件数	4,476 件 (R1年度)	3,741件	3,628件	3,591件	3,247件	2,943件	5,000 件 (R8年度)

【今後の取組の方向性】

地域経済の活力を維持・向上させるため、若い世代の地元就職・定着の促進や、多様な人材が活躍できる環境づくりを進めるとともに、中学生をはじめとする若い世代が地域企業や地域産業に触れ、地域で働く魅力を知る機会を創出し、将来の地元就職や地域への愛着の醸成につなげる。また、創業支援や企業立地の促進などにより地域産業の競争力強化と付加価値の創出を推進するとともに、地域資源を生かした観光・交流の促進やシティプロモーションの充実により、交流人口・関係人口の拡大を図り、地域経済の持続的な発展につながる取組を推進する。

基本目標③ “まち” 住みたいまち、行きたいまち

達成：0　未達成：2　達成率0％

目標指標	基準値	実績値					目標値
		R3	R4	R5	R6	R7	
転出超過数 (H27～H29年は外国人を含まない)	4,386 人 (H27～R1年累計)	383人 (累計383人)	483人 (累計866人)	-151人 (累計715人)	148人 (累計863人)	407人 (累計1,270人)	1,200 人 (R3～R8年累計)
加古川市に住み続けたいと思う市民の割合	67.6% (R2年度)	72.7%	74.4%	75.5%	72.1%	74.4%	78.0% (R8年度)

【今後の取組の方向性】

大学や産業界等との連携を一層強化し、都市から地方への新たな人の流れの創出やUターン・移住・定住の促進に取り組むとともに、地域と継続的に多様な形で関わる関係人口の創出・拡大を図る。また、豊かな自然や歴史、文化芸術などの地域資源に加え、神戸・大阪への優れた交通アクセスや住みやすい生活環境など本市の魅力を生かしたシティプロモーションを推進し、若者や女性、子育て世代をはじめ、多様な世代に選ばれるまちづくりを進める。

2. 国の課題と方向性

国の課題

- 人口減少・少子高齢化の進行
- 東京圏への一極集中と若者・女性の地方からの流出
- 労働力の減少と地域経済の縮小
- 人口減少を前提とした地域社会・生活サービスの維持

国の方向性

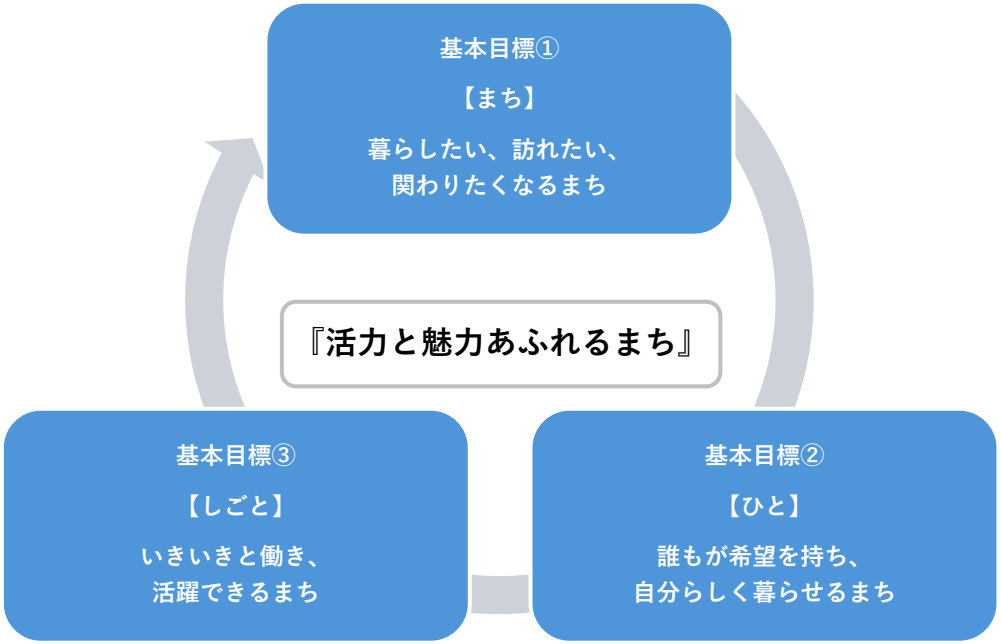
- 若者や女性にも選ばれる地域づくり
- 地域資源を活用した高付加価値型の地方経済の創出
- 安心して暮らせる地方の創出
- AI・デジタルなどの新技術が活用される地方の創出

3. 本市の課題と方向性

加古川市の解決すべき重点課題

- 出生数減少の緩和
- 20～24歳の転出超過への対応

基本目標・目指す方向性



重点施策

- 地域活力の向上と持続可能なまちづくりの推進
- 結婚、出産、子育て施策のさらなる充実
- しごと（働く場）の創出と産業振興による地域経済の活性化

※総合戦略全体を通じた横断的な取組：AX・DXによる課題解決

4. 基本目標、施策体系及び基本的方向

基本目標①
“まち” 暮らしたい、訪れたい、関わりたくなるまち

施策体系（案）	
基本的方向	具体的な施策
(1) 暮らしやすさを実感できるまちをつくる	・公共交通や都市機能などの利便性向上 ・JR加古川駅周辺をはじめとした拠点エリアのにぎわい創出 ・公共空間を活かした交流・滞在空間の創出 ・デジタル技術を活用した課題解決への取組 ・地球温暖化防止対策の推進
(2) 地域資源をいかした魅力あるまちをつくる	・自然、歴史など地域資源を活かした加古川ならではの魅力創出 ・観光・交流の促進による地域のにぎわいづくり ・スポーツ・文化（将棋・音楽等）による交流とにぎわいの創出
(3) 官民等連携・広域連携により地域の活力を高める	・官民連携による地域課題の解決 ・近隣自治体等との広域連携による地域活力の向上 ・民間活力を生かした地域づくり
(4) 地域への愛着醸成と関係人口の創出・拡大を図る	・シビックプライドの醸成 ・地域と多様に関わる関係人口の創出・拡大 ・情報発信の強化
(5) 安全・安心で持続可能なまちをつくる	・安全・安心なまちづくりの推進 ・空き家対策と魅力ある居住環境づくり

4. 基本目標、施策体系及び基本的方向

基本目標②
“ひと” 誰もが希望を持ち、自分らしく暮らせるまち

施策体系（案）	
基本的方向	具体的な施策
(1) 安心して結婚・出産・子育てできる環境をつくる	・結婚、出産、子育てまで切れ目のない支援 ・子育て家庭への包括的な支援体制の充実
(2) 学びと成長を支える環境をつくる	・こどもたちが健やかに育ち、学べる環境づくり ・主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり ・地域への愛着と誇りを育む取組の推進
(3) 自分らしい働き方を実現できる環境をつくる	・子育てと仕事を両立できる環境づくり ・性別にかかわらず家庭と仕事を両立できる環境づくり ・多様なライフスタイルに応じた働き方の支援
(4) 多様性を認め合い、支え合える地域社会をつくる	・アンコンシャス・バイアス解消に向けた意識醸成 ・多様性への理解促進と支え合いの地域づくり

4. 基本目標、施策体系及び基本的方向

基本目標③
“しごと” いきいきと働き、活躍できるまち

施策体系（案）	
基本的方向	具体的な施策
(1) 若者･女性･外国人など多様な人材の活躍を支援する	・若者、女性、外国人など多様な人材の就労支援 ・多様な人材が能力を発揮できる就業環境づくり
(2) 地域産業の成長と発展を支援する	・地域企業の成長支援と地域経済の活性化 ・地域産業の魅力発信強化 ・AI・デジタル技術等を活用した産業の高度化支援
(3) 起業・創業の促進や企業誘致を図る	・起業・創業支援の充実 ・企業誘致による雇用創出と地域経済の活性化
(4) 誰もが働きやすい職場環境をつくる	・多様で柔軟な働き方の推進 ・ワーク・ライフ・バランスの推進 ・働き方改革の推進
(5) 若者が地域企業とつながる機会を創出する	・中学生・高校生等への地域企業紹介やキャリア教育の推進 ・地域企業と若者との接点づくりの強化

資料３

第3期加古川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策体系（案）

○第2期加古川市まち・ひと・しごと創生総合戦略　骨子

■第2期総合戦略（令和3～令和8年度）

1 解決すべき重点課題

●合計特殊出生率の改善

●20～44歳の転出超過数の改善

2 重点施策

●子育て施策のさらなる充実

●しごと（働く場）の創出

●地域活力のさらなる向上

3 基本目標及び施策体系

第2期総合戦略		
	基本目標	基本的方向
①	“ひと” 結婚・出産・子育ての希望をかなえるまち	(1) 安心して結婚・出産できる環境をつくる
		(2) 安心して子育てができる環境をつくる
		(3) 魅力的な教育環境をつくる
		(4) 子育てと仕事の両立を支援する
②	“しごと” いきいきと働けるまち	(1) 若者等の就労を支援する
		(2) 地域企業の成長を支援する
		(3) 起業・創業の促進や企業誘致を図る
		(4) 多様な働き方を支援する
③	“まち” 住みたいまち、行きたいまち	(1) 安全・安心なまちをつくる
		(2) 暮らしやすさを実感できるまちをつくる
		(3) 楽しめるまちをつくり、人の流れをつくる
		(4) 地域連携・官民等連携により元気・魅力を高める
		(5) 市のイメージアップや認知度の向上を図る

4 目指す方向性

●「未来への活力があふれるまち」

○第3期加古川市まち・ひと・しごと創生総合戦略　骨子（案）

■第3期総合戦略（令和9～令和13年度）

1 解決すべき重点課題

●出生数減少の緩和

●20～24歳の転出超過への対応

2 重点施策

●結婚、出産、子育て施策のさらなる充実

●しごと（働く場）の創出と産業振興による地域経済の活性化

●地域活力の向上と持続可能なまちづくりの推進

3 基本目標及び施策体系

第3期総合戦略（案）		
	基本目標	基本的方向
②	“ひと” 誰もが希望を持ち、自分らしく暮らせるまち	(1) 安心して結婚・出産・子育てできる環境をつくる
		(2) 学びと成長を支える環境をつくる
		(3) 自分らしい働き方を実現できる環境をつくる
		(4) 多様性を認め合い、支え合える地域社会をつくる
③	“しごと” いきいきと働き、活躍できるまち	(1) 若者・女性・外国人など多様な人材の活躍を支援する
		(2) 地域産業の成長と発展を支援する
		(3) 起業・創業の促進や企業誘致を図る
		(4) 誰もが働きやすい職場環境をつくる
		(5) 若者が地域企業とつながる機会を創出する
①	“まち” 暮らしたい、訪れたい、関わりたくなるまち	(1) 暮らしやすさを実感できるまちをつくる
		(2) 地域資源をいかした魅力あるまちをつくる
		(3) 官民等連携・広域連携により地域の活力を高める
		(4) 地域への愛着醸成と関係人口の創出・拡大を図る
		(5) 安全・安心で持続可能なまちをつくる

4 目指す方向性（案）

●「活力と魅力のあふれるまち」